四季折々の詩

麻里布中学校
令和７年７月３１日　No.２４９
TEL 22-2234　FAX 22-2235

県吹奏楽コンクール「Ｂ部門　第１位」

賞状
優秀賞 中学生B部門
岩国市立麻里布中学校
あなたがたは山口県総合芸術文化祭二〇二五・第六十四回全日本吹奏楽コンクール 山口県大会において頭書の成績を収められました よってここにこれを賞し今後の精進を期待します
令和七年七月二十八日
山口県
山口県教育委員会
下関市教育委員会
山口県吹奏楽連盟

７月２８日、下関市民会館を会場に、第６４回全日本吹奏楽コンクール山口県大会が開催されました。本校は、昨年度に続きＢ部門に出場し、見事第１位を獲得しました。生徒は、これまで限られた練習時間を有効に活用し懸命に練習に励んできました。当日は緊張もありましたが、練習の成果を出し切るという強い思いで演奏し観客を魅了しました。昨年度も第１位に輝いており、目に見えないプレッシャーと戦いながらも高い意識で練習に励みつかんだ結果を手にした生徒からはうれしさと安堵の表情が見られました。

県選手権大会　「水泳競技　中国大会出場」

７月１９日～２４日にかけ、県選手権大会が開催されました。本校からは、６月に行われた岩国地区予選を勝ち抜いた部とフリー枠で出場できる計７つの競技に参加しました。水泳競技 100m 背泳ぎで３位に入賞し、中国大会への出場権を獲得しました。

選手権大会は、全国大会に通じる大会だけあり、出場者はこの一戦にかける強い思いと緊張感をもって参加しており、どの競技も熱い戦いが繰り広げられました。本校から参加したいずれの部も最後まであきらめることなく戦い自己のベストを尽くしましたが、残念ながら上位進出は叶いませんでした。しかしながら、部活動を通して培った人間関係力や粘り強く取り組む精神力は、これからの人生にとって貴重な力になると信じています。

和装着付け体験教室

７月１６日、２年生の家庭科授業の一環として、日米協会岩国や日米舞踊協会の会員の方々を講師としてお迎えし、和装の着付け体験教室を行いました。初めてゆかたを着る生徒も多く、講師の先生方に習いながらなんとか着ることができました。女子は、帯の結びに苦労していました。当日は、KRY 山口放送や日刊いわくにの取材もあり、その様子が広く紹介されました。

学習ボランティア

７月２２日・２３日、麻里布小学校で行われた学習会に中学生約３０人が学習支援ボランティアとして参加しました。生徒は、２年生～６年生の各教室に分かれ、課題の〇付けや質問に対して答えるなど小学生の学習支援を行いました。８月４日～８日（６日は除く）は中学校で学習会を行います。ここには、地域の方々、岩国高校の生徒が学習支援ボランティアとして参加される予定となっています。

１学期終業式　式辞「最善を考えて行動する力」

１学期の始業式で私がみなさんにお願いしたことを覚えていますか。それは、「自ら学ぶ」ことでした。具体的な話として次のような話をしました。「みなさんは、夢や目標の実現に向けた生活の中にあります。今の生活が、将来の社会生活につながっていくことを意識し、勉強することはもちろん、様々な生活場面で、最善を考えて行動する力を身に付けてほしいと思います。」とメッセージを送りました。どうでしょうか。何か自分が身につけられたものがありますか？

私が、みなさんの生活を見ていて自ら学ぶができていた象徴的な場面を紹介します。まずは、毎朝環境委員が行っている花のお世話です。委員会の仕事として行っていたのかもしれませんが、きれいな花を咲かせたいとの思いをもって、草取りや水やりをしていたと思います。その気持ちによりきれいな花が咲き、訪れる人やみなさんの気持ちを明るくしてくれました。

また、愛と勇気と麻中をテーマに行った生徒総会です。廊下の過ごし方に注目して話し合いを行いました。話し合いの中では、公共のマナーの視点で様々な意見交換がなされたことにより、廊下のマナーが改善され、さらには、登下校中のマナーも改善されてきています。社会の一員としての自覚を高め、みなさんが自分の意思で最善の行動を行っています。そしてもう一つ。みなさんにとって、大切な活動の一つである授業です。知識や技能を高めるだけでなく、考える力、判断する力、表現する力などを養うのが授業です。授業では、毎時間、「めあて」が示されています。みなさんは、その「めあて」に素直に向き合い、一つずつ自己の力を高めています。まだまだ紹介しきれないぐらい他にもたくさんあります。要するに「自ら学ぶ」とは、みなさんが目的をもって自らの意思で行動することです。そして、その先に、みなさんがこれから生きていく上での手段を獲得することにつながるのです。

夏休みは、自分のペースで使える時間がたっぷりあり、自ら学ぶチャンスです。時間は誰にでも平等に与えられています。この時間を有効に使い、将来なりたい自分へと近づけることを願っています。

校長　山本敦士